

図書館 だより

泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
 内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつぶやき
 雑誌が新しくなりました。
 バックナンバーは貸し出しも
 しているよ。みんな見に来て
 ね！



新着・お薦め図書

泗水図書館
 タマネギのひみつ 黒柳徹子 著
 ランチのアッコちゃん 柚木麻子 著
 月神 葉室麟 著
 野心のすずめ 林真理子 著
 天国の国境を越える 李学俊 著
 食べる野草図鑑 岡田恭子 著
 13歳からの家事のきほん46 アントラム 栢木利美 著
 つなのうえのミレット E・A・マッカーリー 作・絵

中央公民館図書室
 イチゴつくりの基礎と実際 齋藤弥生子 著
 ダメをみがく 津村記久子 著
 7の女、8の男 福田千晶 監修
 天皇の刺客 澤田ふじ子 著
 まじょ子は恋のキューピット 藤真知子 作
 こぶたのかばん 佐々木マキ 作

七城公民館図書室
 月下上海 山口恵以子 著
 お寺ごはん 青江覚峰 著
 でんせつのはきものをさがせ！ 田中六大 著
 ふかいあな キャンデス・フレミング 著

旭志公民館図書室
 美人薄命 深水黎一郎 著
 ランドセル俳人の五・七・五 小林凜 著
 こちょばこ こちょばこ 中川ひろたか 文
 ゆめたまご たかの もも 作・絵

55歳からのハローライフ 村上龍



佐藤百合子さん(上町)
 昨年、1月からしばらく、
 熊日新聞紙上で連載されてい
 たので、読んだ人も多いと思
 う。
 オムニバス形式で5編の構
 成。感情移入しやすいのは、
 書名と同じ年齢を今現在過ご
 しているからだろう。

この世がそれほどいいもの
 でないことは体験済みだ。人生が、先のみえない困難の
 連続であることもすでに熟知している年代である。
 不平や不満を抱えながら、幸せだと呼ぶにはちょっと
 …と、生活に違和感を持ちながらも、ささやかな、不確
 かな光を頼りに明日を探す市井の人々の姿は、おそらく
 中高年世代に共通するであろう心情を投影している。
 惜しむらくは、新聞には載っていた著者自身の手によ
 るカット画が、本にはないことだ。
 筆力も去ることながら美大出身ならではの卓越した画
 才を堪能できないことは残念である。

耳より情報

旭志公民館図書室おはなし会

旭志公民館図書室で、おはなし会を始めました。毎月第
 3土曜日に開催しています。内容は、絵本、手遊び、折り
 紙などを予定しています。
 ぜひお越しください♪



とき 9月21日(土) 午後1時30分～
 ところ 旭志公民館図書室



万句の里俳句会 7月例会
 風鈴の軒先に鳴る山の茶屋 加藤 妙子
 遙かなる風の彼方の閑古鳥 北村 妙子
 里山の押し上げてゐる雲の峰 平山 邦子
 蝉生まれうすき羽音の飛びたてり 宮本 雅子
 林 まつ子

せせらぎ俳句会 7月例会
 百歳にして尚恋ふ夫や魂迎え 村山 数恵
 リハビリを終え七夕の客となる 藤本アツ子
 「きつと叶う」言葉嬉しき星今宵 渡辺 大寿
 金婚の縁は宝星祭る 藤本 邦治
 風鈴のしきりにさびし留守の家 五丁 義昭

旭志文芸教室俳句会 7月詠草
 代掻きは雨降りもよし鼻歌で 芹川のり子
 水撒けば炎天の庭湯気立つる 中尾ヨシコ
 遠き日の授乳の畦や麦の秋 芹川 蓉子

肥後狂句水笑会 7月例会
 クラス会余韻残りし夏夕暮 水谷 ミネ
 根比べ 尻上げたつが払わなん 高倉 新米
 もつての外 以下紹介に止められ 辻 弘喜
 挙句の果て 過信が招く大手術 藤野 清子
 若う無ア まだ小便の出終わらん 光掘 善教
 若う無ア 腰掛くる場所さがしよる 上村 ○子
 当てはずれ 呑み友達も無一文 井手 水光
 腹んたつ 自分の事は棚上げて 御手洗三代
 当てはずれ 海外旅行はパンフだけ 続 義昭
 腹んたつ 俺がへそくり使うとる 柏原 乗仏
 腹んたつ 下手が勝つ日て言いよら 山隈 好茶

七城短歌会 7月詠草
 みどり児の名を呼びたれば見つめく 高木 精
 る円らな瞳かがやき満ちる

高齡者大学文芸部 7月歌会
 カサブランカ花柄数多咲く庭を孫に
 頼みてカメラに納む 池田カツ子
 独居宅を訪う慣らわしの中学生マリ
 ーゴールド植え込みくれる 吉間 充子
 早朝に来たる庭畑ラジオオラス赤白
 咲きいる露に濡れつつ 水田紗陽子
 亡き夫の容姿にどこかよく似たる流
 れる雲よしばしとどまれ 緒方 寛子

菊池短歌会 8月例会
 全開の窓に吹き入る青田風しなやか
 に野を渡りきし果て 岩永 典子
 谷風にかすかに揺るる花蓮歩みとど
 めて時頒つなり 梅田 昭子
 野球帽斜めかぶりもさまになり帰省
 の孫が蝉捕るまがを 古賀 勝士

菊池短歌会 8月例会
 雨の中尊紫陽花のいきいきと青と水
 色庭に溢れる 田中 遙子
 火の神が狂いしごとく炎立て渦を巻
 き舞う阿蘇の野焼きは 岩根 博恵
 梅雨雲は今日も遠し水無月の田植
 急急かるる老いても農婦 山下 菊代



聞かれても言ふてはならぬ事がある
 鋸切草な風にうなづく 中川 愛子
 ひと連らの雲の翳りを懇ろに這はせ
 て青し鞍岳斜り 竹野美智代

文芸 きくち